

無量光院は、西方浄土を再現しようと試みた 12 世紀の浄土仏教の寺院の貴重な例でした。今日の研究者や歴史家たちは、この寺院の庭園を浄土式寺院庭園の傑作の一つと評価しています。建築物としての重要性に加え、無量光院とその浄土庭園からは 12 世紀の仏教徒が思い描いた西方浄土の姿を伺い知ることができます。

13 世紀の歴史書『吾妻鏡』によると、無量光院の伽藍は京都にある平等院を模したものと記録されています。無量光院と平等院はどちらも、池中にある島に翼状の廊を備えた阿弥陀堂が建てられました。

無量光院の造営は、平泉を支配していた奥州藤原氏の三代秀衡(1122－1187 年)によるものです。無量光院の境内は周囲を囲む土塁と、広大な庭園と 3 つの島をもつ広大な苑池で構成されています。池の中のもっとも大きな島に阿弥陀堂が建っていました。極楽浄土は西方にありとする仏教の世界観を表すため、阿弥陀堂は東向きに建てられていました。

発掘調査では、東島の上から数棟の建物の痕跡が発見されました。研究者たちはここで儀式や祈りが行われたと考えています。北小島には、阿弥陀堂へ橋を掛け渡した痕跡が確認されています。無量光院跡はユネスコ世界遺産「平泉」の構成遺産に含まれています。そして、平泉に 4 つある浄土を表現した 12 世紀の寺院庭園の 1 つです。他の 3 つの浄土庭園は、中尊寺、毛越寺の庭園、観自在王院跡の庭園です。